

靈岸島濱町名主
太一郎
深川熊井町同
理左衛門

〔愛媛面影野間郡〕波止濱

此所鹽田多し、天和の頃經營をはじめたりと云、樋口川の堤長六百三十九步、柚田川六百十一步、南高部村の境を経て河水を導き海に入、鹽田の害を避く、汐留の勸請とて龍神祠あり、毎年三月八九日の間祭禮賑はし、民家漸く繁榮して、今に二百餘年、鹵鹽の利甚多しと云、

〔筑前續風土記土産〕鹽 長政公田 入國の後、姪濱其外所々海濱にて鹽を多く焼せらる、凡鹽は民食軍用に切なる事、五穀につげば成べし、姪濱鹽尤美也、中 近國海に遠き所、此國より鹽を遣はす、至らざる所なし、甘木に毎月六度市ありて、海味を商のふ、近國より來り買、

〔荒木古老傳下〕慶長八年之開、遠山勘左衛門殿御定分、鹽濱畝數合壹町五反七畝七步、鹽四拾壹石六斗八升、右ハ慶長八年之開、遠山勘左衛門殿御定分、鹽濱畝數合三反、分鹽 四石五斗、慶長十年之開、同畝數合貳反九畝、分鹽 四石三斗五升、慶長十一年之開、同畝數合三反、分鹽 四石五斗、慶長十五年之開、右之高五拾五石三升、畝數貳反壹畝廿六步、分鹽 三石貳斗八升貳合、松田若狹殿見付ニて、御定斗之上、口鹽共に開物成、慶長十六年之開、濱三拾九牧川成あり、是は教雲橋より東南の濱なるべし、

貢進

〔令義解三賦役〕凡調、中 正丁一人、中 若輸雜物者、中 鹽三斗、中 其調副物、註 正丁一人、中 鹽一升、

〔延喜式主計〕凡諸國輸調、中 一丁、中 鹽三斗、中

凡諸國輸庸、壹岐對馬等 一丁、中 鹽一斗五升、中

凡中男一人輸作物、中 破鹽七升五合、中